

学びの広場

2021
10月号

問 教育課 学校教育係
生涯学習係
☎(83)7023
☎(83)7021

毎月第1日曜日は、「家読(うちどく)の日」です!

町では、毎月第1日曜日を『家読(うちどく)の日』として、家族で読書をすることを推奨しています。

子どもの読書の習慣は、大人の行動によって大きく左右されます。読書の秋、家族で図書館に駆け、お気に入りの本を選んでみるのもよいでしょう。



作家の柳田邦男(やなぎだくにお)さんは、絵本は人生に3度読むべきであるとおっしゃっています。

しゃっています。最初は大人に読み聞かせてもらう時、2度目は大人になって子どもに読み聞かせる時、3度目は人生の後半になってもう一度読み返した時。特に3度目の人生経験を積んだ後の絵本との出会いの中には、今まで気づけなかった読み方や気づきがあるそうです。読書の楽しみは、豊かに膨らみます。

家族で『うちどく』して、みんなで豊かな心を育みましょう!

10年後のあなたに手紙を送りましょう

読書習慣
10月27日
~11月9日

①10年後の自分宛に手紙を書き、切手を貼って図書館にお持ちください。図書館で文書として保管し、10年後に郵送します。

問 町図書館 ☎(83)7024

なつやすみ読書マラソン、完走者続々と!



図書館では、夏休みを活用して『読書マラソン』を企画しました。このマラソンに参加して下さった方からは、「カードに記録することで自分の読んだ本のあとが残ってよかった。」など、感想が寄せられました。本の世界の楽しい夏の思い出が、豊かな心の成長につながっているに違いありません。

松田 文化財探訪

続・町指定文化財とその周辺 その23

文化財保護委員 鈴木 一行

中尾農道に沿って(十)

最明寺史跡公園②

最明寺(西明寺)を開いた浄蓮房源延は、1156年に加藤景員の三男として生まれています。父や兄景廉は源頼朝挙兵以来の有力御家人です。一方、源延は早くに延暦寺に入り、澄憲について学びました。澄憲



護摩堂跡

は平治の乱で討たれた藤原通憲(信西)の子で、天台宗唱導の祖とされる人物です。そして浄土宗開祖の法然に学んだ後、伊豆走湯山の別当となりました。その間、浄土信仰を強めた源延は1195年から26年間、毎年信濃国善光寺に詣でたといわれます。また、鎌倉にも赴き、將軍家や御家人達からの帰依を受けています。

さて、最明寺建立に当たって誰が檀那(経済的な援護者)となったのでしょうか。『まつだの歴史』(1977年、町教育委員会発行)は「松田郷を治めていた大庭景義が源延を招いて建立させた」としています。

後の小田原北条氏の例を見ても分かるように、東国政権の西に対する防衛の要は箱根・足柄ラインです。そして、その手前の交通の要衝に建つのが最明寺です。この地は軍事的にも重要な場所であった筈。この様な背景の中で、「幕府からの信任も厚い源延が、幕府の保護の元に松田の地に最明寺を開いた」と考えるのは浅慮でしょうか。